

小 論 文

2月25日(水) 情報学部(情報社会学科) 9:30 ~ 11:30

注 意 事 項

試験開始前

- 1 監督者の指示があるまで、問題冊子、解答用紙、下書き用紙に手を触れてはいけません。
- 2 監督者の指示に従って、全部の解答用紙(2枚)に受験番号を記入しなさい。

試験開始後

- 3 この問題冊子は、3ページあります。はじめに、問題冊子、解答用紙、下書き用紙を確かめ、枚数の不足や、印刷不鮮明なもの、ページの落丁・乱丁があった場合は、手をあげて監督者に申し出なさい。
- 4 解答は、すべて別紙解答用紙に記入しなさい。(下書き用紙と間違わないよう十分注意してください。下書き用紙は、採点対象となりません。)
- 5 文字数制限のある解答用紙の記入については、下記の点に留意すること。

<ul style="list-style-type: none">・書き出し・改行後は、一マスあけない。・句読点なども1文字と数える。・英数字は一マスに2文字入れてよい。
--
- 6 問題は、声を出して読んではいけません。
- 7 配点は、比率(%)で表示してあります。

試験終了後

- 8 問題冊子と下書き用紙は、必ず持ち帰りなさい。

次の文章は『アルゴリズム・AIを疑う 誰がブラックボックスをつくるのか』（宇田川 敦史著，集英社，2025年）の一部です。よく読んであとの問いに答えなさい。なお，問題作成のために文章を一部改編しました。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

- 問1 下線部「二重過程理論」について、本文ではどのように説明されているか。150字以内で筆者の考えを説明しなさい。(配点 30%)
- 問2 本文に示されているような、アテンション・エコノミーの原理によって生じる問題への対応策として、どのようなものが考えられるか。本文の内容をふまえ、あなたの考えを500字以内で述べなさい。(配点 70%)

採点・評価基準(具体的基準)

教科・科目名	小論文 (私費外国人：令和8年度)	問題番号	
対象学部・ 学科(課程)等	情報学部 (情報社会学科)		
出題のねらい	<p>課題文において筆者は、個人に認知バイアスが存在する下で、アテンション・エコノミーの原理によって、アルゴリズムが引き起こす問題について論じている。この課題文の日本語を正確に読みとる能力、そして課題文の文章を適宜要約しながら設問に的確に答える能力が問われる。</p>		
採点基準	<p>問1 (配点30%)</p> <p>「二重過程理論」という理論をめぐって、システム1とシステム2 (速い思考と遅い思考) について、それぞれの内容、また両者の相違を的確に理解し、これを適切な表現で説明することが求められる。</p> <p>問2 (配点70%)</p> <p>課題文で示されている、アテンション・エコノミーの原理によって生じる問題を的確に理解しているかが求められる。さらに、その問題を解決する方策について、個人に存在する認知バイアスをふまえ、自分自身の考えを論理的に提示することが求められる。</p>		